

環境
大臣賞

中小企業区分

山陽製紙株式会社

※事業者の情報は応募時点(2018年)

所在地	大阪府泉南市男里 6-4-25
業種	製造業
社員数	48名
受賞歴	2016 優秀賞、2017 優秀賞
ウェブサイト	http://www.sanyo-paper.co.jp/

環境に配慮した循環型社会に貢献する製紙会社

取組の目的

我が社の経営理念は「私たちは紙創りを通してお客様と喜びを共有し、環境に配慮した循環型社会に貢献します」というものです。その経営理念を形にするべく、まず、経営理念に共感する人材育成に取り組んできました。また、新しく環境に配慮した設備の導入、環境活動を推進する商品開発を行い、従前から地域への貢献活動にも全社で取り組んできました。

使用電力を再生可能エネルギー(FIT)へ切り替えたこと(新電力会社「みんな電力」を通して長野県水芭蕉発電所の水力発電を使用)をきっかけに、活性炭濾過による高度排水処理設備を稼働させました。そして、そのような環境に配慮した生産体制を基盤に、商品開発では、リサイクルされていないコピー用紙のアップサイクルを推進する新サービス「PELP!」をリリースしました。

再生可能エネルギーへの切り替えや、高度排水処理設備の導入は、社員の仕事に対する誇りややりがい、モチベーション向上につながると同時に、社会的課題を解決する新商品開発の原動力になりました。

取組の実績

① アドプトリバー「男里川の自然を守る会」

2017年11月～2018年11月の毎月第2日曜日 8時～9時 現在 140回

② 高度排水処理設備の導入

アドプトリバー「男里川の自然を守る会」の活動を続ける中で、製紙で使用した水を「魚が棲める水」にして返すことを意識するようになりました。そこで 2018年2月活性炭ろ過による高度排水処

「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

理設備を稼働させるに至りました。これまでの設備で十分法規制はクリアしておりましたが、環境問題に対する社員の意識が高まる中でさらに高度な設備の導入を決めました。導入費用は売上高の約 1/3、稼働によるランニングコストも増えることから、全社員の理解も必要でした。そのコミュニケーションの場として、全社員の理解の場は「委員会」を活用しました。



男里川の掃除 7 月開催時の写真

③ 再生可能エネルギーへの切り替え

2017 年 7 月から、新電力会社「みんな電力株式会社」と契約し、長野県の水芭蕉発電所の水力発電で賄われることになりました。みんな電力株式会社は「顔の見える発電所」を謳っており、切り替え時には長野県職員の方も工場見学に来られるなど、交流を図りつつ現場の人材育成に努めています。

④ 各種委員会活動

部署を超えたクロスファンクショナルチームでできた 5 つの委員会があり、自主的に社内の目標や課題に取り組む活動をしています。5 つの委員会はそれぞれ、「理念委員会、CS/ES 委員会、業績アップ委員会、ゼロエミ委員会、3S 委員会」となっています。理念委員会は入社 2 年目を迎えたばかりの社員が委員長となり、わが社の中核行事「理念祭」を成功させました。ゼロエミ委員会は、わが社の廃棄物をゼロにする取り組みを、業績アップ委員会は、オープンにされた会社の財務をもとに、予算組みからその進捗管理を行い、変動費や固定費の削減に貢献しています。

⑤ 商品 PELP! (Paper Help Project ~ペルプ~)

「捨てず 燃やさず めぐる紙」というブランドコンセプトの新商品「PELP!」を 5 月にリリース。

中小の事業所では、分別すれば高品質の資源になるコピー用紙などの紙が、分別されずゴミとして捨てられている現状があります。各企業から出るコピー用紙を回収し、封筒や名刺にアップサイクルして、もう一度企業に使うという会員制のサービスです。会員になることで、自社の紙ごみが、いつでも回収され、それがどのように地球環境負荷の軽減に役立ったかが見える化された「カミトレ」システム(PELP!ブランドサイト)を利用することができます。カミトレは ISO9001 のトレサビリティを活用したものです。小さな製紙会社だからこそ、各部署が連携して「使用済みコピー用紙の受入れ」(PELP!係)から、「製紙」(製造パート)、「製品化」(マーケティング部 営業部)、「会員企業への商品販売・納入、店舗への商品の納入」(お客様係)までを一貫して管理できます。捨てられるコピー用紙のアップサイクルを通して、会員企業全社でクローズドループを作っています。「カミトレ」は会員各企業の環境活動の支援システムになっています。コピー用紙の回収袋「PELP!」袋は、2018 年日本パッケージングコンテスト 輸送包装部門賞を受賞しました。新商品 PELP!をリリースするにあたり、インナーブランディングを行い、全社員で環境貢献できる新商品を世に広めようと意識統一を行いました。

⑥CSR 検定試験及びエコ検定試験

第7・8回 CSR 検定3級(2018年)
(実績)年間10名受験して4名合格
48名中24名合格済(50%)

第22・23回エコ検定試験(2018年)
(実績)年間10名受験して3名合格
48名中36名合格済(78%)

⑦キャリア教育を推進するNPO法人JAEと連携した、泉南市小学校への出前授業「ドリカムスクール」を3年連続実施

- 2018年6月18日
ドリカムスクール初回勉強会 この週から定期的に勉強会&活動
- 2018年10月15日
出前授業にて紙漉き体験と小学生にミッションの発表
- 2018年10月18日 弊社工場見学
- 2016年11月26日
小学校にて最終プレゼン



工場見学中の小学生の皆様と案内役の若手社員

⑧第10回理念祭 社員と理念を深め合う一日

2018年4月28日(土)泉南市商工会2Fにて開催。今年は第10回を迎え、理念経営を目指す企業の経営者たちが見学に訪れ、社員との意見交換が行われました。10回を記念して、勤続64年の顧問から創業時の話を聞き、創業の精神を学びました。

⑨EA21+ゼロエミ委員会によるエコポイント活動、3S委員会による効率化改善活動

EA21活動の中の産業廃棄物の削減項目を細分化し、ゼロを目指した活動、3Sでの改善、全社員参加の自社独自のエコポイント活動を発足。

2018年4月よりガイドラインも2017年度版に変更しました。今回の添付資料はEA21環境経営レポートより抜粋しています。デザインは入社2年半のマーケティング部員が担当しました。

⑩工場見学

一般社会人や企業から依頼があったことから、週中での製紙工程を見学して頂くツアーを開始しました。夏休みには遠くから家族連れで工場見学に来られます。予約によって紙すき体験も出来ます。弊社の環境への取り組みを見学に訪れる人が増え、前期と比較し4倍の見学者になりました。

成果・課題

① アドブトリバー「男里川の自然を守る会」

毎月第2日曜日の朝から1時間の掃除ですが、最近では気候変動による集中豪雨や大型台風にも

「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

よる川の氾濫が取りざたされるようになり、地域住民の役割として、日ごろからの川の観察の重要性を感じるようになりました。大阪府の土木事務所とのコミュニケーションを図り、土手のひび割れ、川の浚渫工事も見守りながら、災害のリスクを回避していきたいと考えています。年に1回の、土木事務所の職員の皆さんとの合同での活動も定着、今年は掃除と合わせて災害への備えについてレクチャーを受けることができました。

② 高度排水処理設備の導入

設備の導入により、より経営理念への共感が深まったと感じています。製紙工程で1日2,000トンの水を利用し、その排水処理については現場で働く社員がもっとも身近に感じていることです。良い紙をつくることの喜びはもちろん、環境についても配慮する職場を築き上げていくために、排水処理の過程、装置の使用方法を、OJTを通して理解しました。

排水処理設備を見学に来られる人たちにも、自信と誇りをもって説明できる社員をこれからも育成していきたいと思えます。

③ 再生可能エネルギーへの切り替え

弊社では、1か月に30万キロワットの電力を消費します。再生可能なエネルギーを使用することで、CSRを推進するお客様の期待に応えることができると考え、再生可能エネルギーの使用を推進する「みんな電力」株式会社との契約を行いました。

これまでの電力会社が値下げを行う中での新電力への切り替えは、1年を振り返れば原価に負担がかかっています。また、高度排水処理設備の導入によるランニングコストも併せて、製造原価のアップは避けては通れないことを実感しています。

しかし、長期的な視点で、全社員の知恵を絞って戦略を策定するべく取り組みを始めました。

④ 各種委員会活動

自部署の仕事だけでなく、全社的な視点で活動する委員会活動は、社員一人ひとりの経営的な思考を育てることにつながりました。また、他部署の仕事内容を知り、お互いの仕事の連携を大切に考えるようになり、コミュニケーションの質が向上しました。

今後全員経営に生かしていきたいと思っています。

⑤ 商品 PELP! (Paper Help Project ~ペルプ~)

5月にPELP!がリリースされてから、CSRに取り組んでいたり、これから取り組みたいと思っている大手企業からの問い合わせが増えました。PELP!の会員企業になることで、SDGsのゴールのひとつである「つくる責任つかう責任」を具体的に落とし込むことができると考える企業も少なくないことがわかりました。自社だけではなく、新商品の販売を通して、多くの企業を巻き込んだ環境活動ができると確信しました。

⑥ CSR 検定試験及びエコ検定試験

2008年から始めた全社員による日本商工会議所主催の「エコ検定試験」は、現在では全社員の75%に当たる36名が合格し、今年東京商工会議所主催の「eco 検定アワード 2018」で、エコユニット部門 奨励賞を受賞しました。これをきっかけに、エコユニットの活動を活性化していきたい

「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

と思います。課題は、合格率の向上と合格者の次の目標設定です。

⑦出前授業「ドリカムスクール」

ホームページへの以下のような学校からの問い合わせも来るようになり、そのことが社員一人一人のモチベーションにつながると考えています。

【ドリカムの話をお聞きし、我が小学校でも実施可能なのか相談させて頂きたい事と、ぜひ前向きに検討して頂けると有難い。子ども達がとても楽しく、学べて良い思い出にもなり、今後の社会生活の上でも役立つ活動だと思う。「紙」はどう出来るのか？又、出来た後の流れは？小学校でも出来るリサイクル活動に協力して欲しい】

⑧第 10 回理念祭 社員と理念を深め合う一日

「経営理念」の大切さを自らの言葉で自然に伝えあえる場となり、社風形成の場となりました。

⑨EA21+ゼロエミ委員会によるエコポイント活動、3S 委員会による効率化改善活動

環境方針の「環境保全への行動指針」を改訂し、新たに環境人財の育成という項目を追加しました。環境方針「山陽製紙は、地球環境を守ることが全人類の最重要課題であることを認識し、どうしたら自然と共生できるかということを中心に考え、環境問題に全社員で積極的に取り組みます。」の下、全社員が参加できるエコポイント制度など、一人ひとりが日々の CO₂ 削減の見える化を図っています。

⑩工場見学

関西空港に近いという立地もあり、海外からの工場見学者がこの 1 年で増えました。今後オリンピックや大阪万博に向けて、国際的な視点で環境保護活動を発信できる小さな製紙会社になりたいと思います。

今後の改善

① アドプトリバー「男里川の自然を守る会」

社員の社会貢献への意識も高まり、アドプトリバーの活動以外にも、地域行事や自治会活動でも進んでリーダーシップを発揮できる社員が増えてきました。また自社の地元での存在感が増すことで愛社精神も高まり、仕事に対する誇りと自分の仕事に対する使命感を醸成できる事が期待されます。

今後は、協働して活動している住民の皆さんの高齢化が進んでいることもあり、健康に留意しながら、楽しく参加して頂けるようにコミュニケーションを大切にしたいと思っています。また、川沿いの地域の企業にも積極的に働きかけ、参加者が増えるようにと考えています。

② 高度排水処理設備の導入 及び ③ 再生可能エネルギーへの切り替え

環境に配慮した取り組みをしている製紙会社としての認知度の向上を図り、より成長していきたいと思います。一方で原価低減の工夫をするとともに、より付加価値の高い商品開発を進め、社会

「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

的課題の解決に取り組む企業から必要とされる企業を目指します。

④各種委員会活動

社員が自主的に計画し運営する事で社員の自主性と経営的な視点が醸成され、仕事に対する価値観の共有に大きな力となっています。これからの経営環境の変化は想像以上に厳しいものがあり、社員一人ひとりの知恵を集めた全員経営は欠かせないと考えます。その為にも理念祭を活用して人財の育成を図って行きたいと思えます。

⑤商品 PELP! (Paper Help Project ~ペルプ~)

現在会員数は 50 社ほどですが、5 年後の 10,000 社を目指して取り組んで行きたいと思えます。10,000 社が達成できたとき、「コピー用紙は再生できる」という文化が生まれると思っています。

⑥CSR 検定試験及びエコ検定試験

何度も挑戦してやっと合格した時の喜びは何にも代えがたいものがあり、そのことが次の挑戦への意欲を掻き立てるようです。努力は報われることを実感して前向きな思考が身に着きました。まだまだ全社員合格には至りませんが、全員合格を目指して、普段からの環境や CSR への取り組みを進化させていきたいと思えます。

⑦小学校への出前授業及び工場見学案内

若手社員の人材育成を目的として、NPO 法人のキャリア形成プログラムを利用して 3 年目に入りました。自分の仕事や会社の理念、事業内容を小学生に語る事でプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が向上すると共に、一つのチームで企画、運営する事で一体感が生まれ、事後に仕事でのチームワークに大きな効果が得られるとも期待しています。又、地元の他の学校の先生方からも次回は自分の学校でも開催して欲しいとの要望も出ており、地域貢献の一環として今後も継続して行きたい活動です。

⑧理念祭

環境や理念について学び多い1日ですが、外部からの来客や深掘する為の計画を更に高めていきたいと思えます。

⑨EA21+ゼロエミ+3S 活動

ガイドラインが変わったばかりの EA21 ですが、今期から「エコアクション活動」ではなく、「環境経営活動」として、更なる取組みの向上が必要です。ゼロエミッションも3Sによる効率化も、環境を変えるには責任を持ち何事にも取り組むような前向きさや挑戦力も育成していく事と、環境活動からの経営計画も併せ、学び合う時間の共有を強化していきます。

⑩工場見学

今まで以上に安全対策はもちろん、工場を見学して頂く為の環境創りが大事です。お客様が御来社してまで見たいモノを具体的に形にしてサービスとして対応出来るように、ES委員会や研究

「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

開発室が改善を重ねていく必要があります。楽しい見学・ワクワクする見学・勉強になる見学を実施出来るように「より分かりやすい工場見学」に努力しつつ、スキルアップを目指したいと思いません。

関連補足情報

1. 「わが社のサステナビリティへの取組」
<http://www.sanyo-paper.co.jp/company/activity/>
2. 「PELP！はコピー用紙を資源に変える 100%アップサイクルサービスです」
<http://pelp.jp/>
3. 「アドトリバー「男里川の自然を守る会」」
<https://www.facebook.com/アドトリバー男里川の自然を守る会-208557119162929/>
4. 第 61 期 環境経営レポート
<http://ea21.jp/list/pdfn/0002824.pdf>

審査委員会からの講評

「紙創りを通してお客様と喜びを共有し、環境に配慮した循環型社会に貢献」を経営理念とし、人材の育成を図っている。社員への「人財育成の仕組み」があり、環境教育は人財育成の中で明確に位置付けられている。企業戦略と環境教育が統合しており大いに評価される。

環境教育として河川清掃の地域活動、委員会活動、eco検定・CSR 検定受験、社員の経営理念を深める理念祭、社内エコポイント、工場見学受入など幅広い活動を実施している。

特長ある活動として挙げられるのは委員会活動であり、理念委員会、CS/ES 委員会、業績アップ委員会、ゼロエミッション委員会、3S 委員会に分かれ活動し、社員の経営的思考の育成、社内コミュニケーションの向上に役立っている。

高度排水処理設備の導入を行っているが、設備導入に合わせて、前記の委員会を利用し社員全員の理解を得ていることは評価される。